

氏名 眞 田 英 次

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博 乙 第 2213 号

学 位 授 与 の 日 付 平成 2 年 12 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 SYNERGISTIC ANTIPROLIFERATIVE EFFECT OF THE COMBINATION OF NATURAL HUMAN TUMOR NECROSIS FACTOR- α AND NATURAL MURINE INTERFERON- α / β AGAINST COLON-26 ADENOCARCINOMA HEPATIC METASTASES IN A MURINE MODEL

（マウスにおける colon-26 腺癌肝転移に対する天然型ヒト腫瘍壊死因子- α と天然マウスインターフェロン- α / β との併用による相乗的増殖抑制効果について）

論 文 審 査 委 員 教授 木村郁郎 教授 寺本 滋 教授 赤木忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

大腸癌手術後の肝転移予防のためには手術の際にひきおこされる微小肝転移巣の消滅または増殖抑制が必要であるとの認識から、CDF1 マウスを用いて colon-26 大腸腺癌の肝転移モデルを作成し天然型ヒト腫瘍壊死因子- α (nHu TNF- α) と天然型マウスインターフェロン- α / β (nMu IFN- α / β) との併用による微小肝転移巣の増殖抑制効果を調べた。uHu TNF- α および nMu IFN- α / β は単独投与にて肝転移結節数を減少せしめ、併用投与にては肝転移結節数は有意に減少し相乗的な腫瘍増殖抑制効果を示した。また免疫学的検索として natural killer (NK) 活性を測定した。nHu TNF- α 、nMu IFN- α / β とともに NK 活性を増強し、両者の併用によって有意の NK 活性の増強を認めた。以上より、これらサイトカインの併用投与は大腸癌肝転移巣に対し有意の増殖抑制効果を示し、その作用機序の一つとして NK 活性が関与している可能性が示唆された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はマウス colon-26 腺癌肝転移に対する天然型ヒト腫瘍壊死因子- α と天然型

マウスインターフェロン- α/β との併用効果について実験的に研究したものであるが、従来十分検討されていなかったその併用効果の詳細について、肝転移に対する相乗的効果とか NK 活性の増強を認め、重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。